

本草圖譜

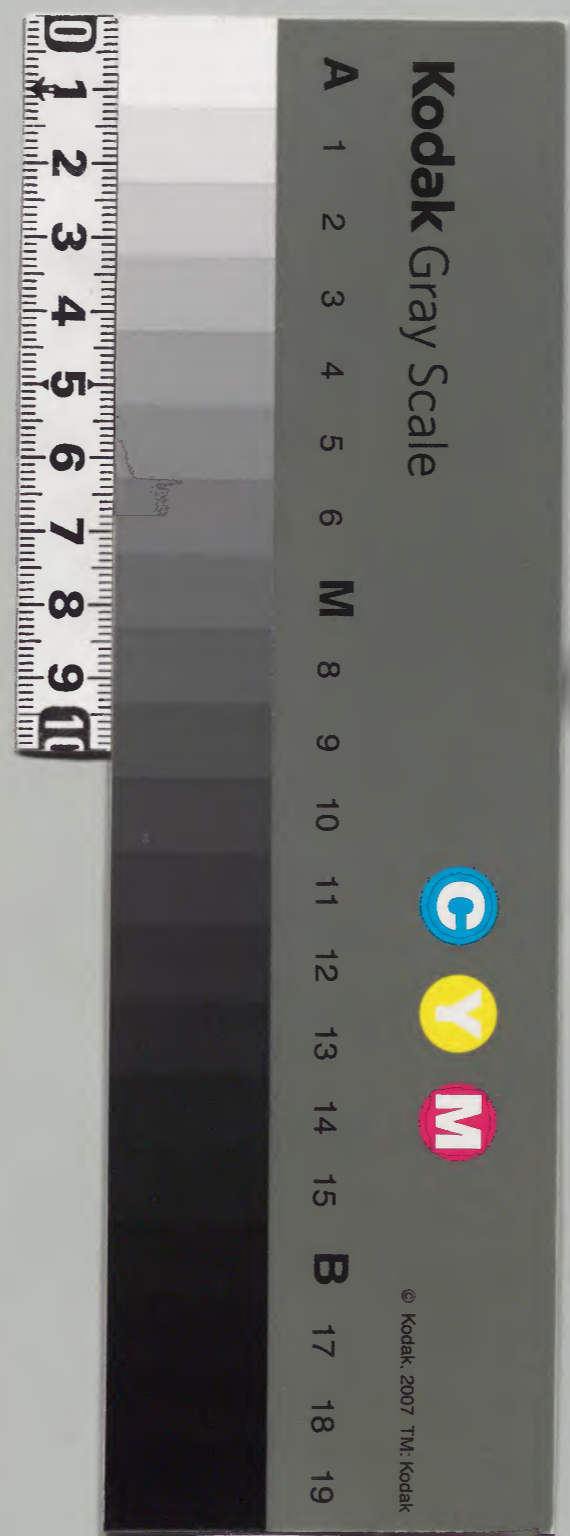
卷之八十九

和書門			
三	六	六	類
四	五	冊	架

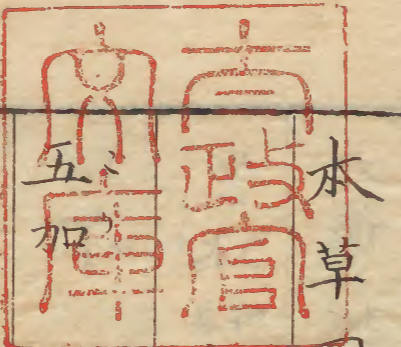
內閣文庫			
五	六	函	架
三	四	六	冊
二	五	六	號

植物
S
42

內閣文庫	
番號	和 366
冊數	45 (42)
函號	196 189



一種	一種	一種	沒 <small>メツ</small> 疏 <small>シュ</small>	枸 <small>ク</small> 杞 <small>キ</small>	五 <small>五</small> 加 <small>加</small>	一	一	九	楊 <small>ヤウ</small> 楹 <small>エイ</small>	十
ふんしやうしき	あはらうしき	うづき	ぬまゆき	むらき	こまゆき	かろうしき	こむしき	たしうしき		
八	七	五	三	一	一	二	六			
一種	一種	一種	枸 <small>ク</small> 棘 <small>キヤク</small>	枸 <small>ク</small> 棘 <small>キヤク</small>	棘 <small>キヤク</small>	四	二			



本草圖譜卷之八十九目錄

灌木類



一種	紫珠 <small>解集</small>	石荊	一種	牡荊	石南	一種	一種
やぶとろ	あむらさき	不詳		えんちんふく	ちやくあけ		とふねうし
廿一	廿一	紫荊	紫荊	十五	十四	十二	十三
一種	一種	紫荊	紫荊	蔓荊	一種	一種	一種
	ありさきまふ	さふらう	不詳	たまむい	大峯ちやくあけ		
廿一	廿一			十七			

本草圖譜卷之八十九

灌木類

東都男門人

岩崎常正著
岩崎信正校
小山廣孝

五加

むあき和名

うあき漢音

いつかき別

金玉香草

文章草

五加子抱朴

八角茶四書林

金鹽母

五引本草如名

杜節

節

花引蕭名苑

豉母

本草綱目卷之八十九



樹高き八九尺に至る樹皮白色を
 帯へり春月宿莖より嫩芽を生じ
 一莖五葉をあらて形牡荊に似て先
 尖らば周りは浅き鋸齒あり一葉
 の長さ二寸許りに至る此葉柔き時
 採て食料とあり夏月葉の間より
 花球をあらて開き後實を結ぶ形人
 参の實に似て四一秋月に至り黒
 色とある葉も秋月に至れば枯落
 大和本草は葉を食へり又乾て食
 茶とるも一とツリ

一種

此品人家多く栽て藩籬とて樹高
七八尺に至る樹皮前条と同一舊差
新差とも刺多し葉をとると甚密
あり春月葉を生じ形前条と似て少
小一花實也又前条と別なり



枸杞

ぬきくすり 和名

くま 同上 枸杞

どろくろ 俗

苦菜 爾雅

象柴 杞子

純盧 上同 仙人扶 草木

靈龐 名物 方言

地精 醫學 入門 天精子 香祖 筆記 引廣韻



枝幹蔓 似て柔之長 長 八長十二丈許 至 一振より 叢生 に 春月 嫩芽を生 葉の形状 石榴の葉に似て 軟 り 夏月 葉の間 三四花 を 簇生 に 一花の形 桔梗に似て 至 て 小く 淡紫色 一後 賢を結ぶ 形 櫻桃の賢に似て 大 長 熟 を 紅色 と 味 酸 甘 此品 蘓頌 の説 其 賢 正 長 而 枝無刺者 真 枸杞也 と する 物 なり



本草綱目 卷之八



枸棘

集解

をまらふ

人家に栽て籬とあはし樹の形前条に似て長と二丈



許り葉の形前条に似て少し小く舊莖新莖とも刺を生じ花實も前条と同じく實前条より長あり藎頰の説は有刺者枸棘也といふものなり

地骨皮

枸杞の根の皮に其形朽木の肌に如く黒褐色にして軟りあり

溲疏

うつき 和名

うつけ 州

あろりのちあ

うのちあ

もめき 薩州

集解の諸説にてハ的當あらされとも古説に随てうつきを載に
山野人家とも多くあり樹高七八尺に至る枝葉對生し春月嫩芽
を生じ葉形木天蓼に似て厚く周りに鋸齒あり初夏梢に二三寸穂を
引て五瓣の白花を開く形枯梗に似て大さ四分許り後實を結ぶ形は
人けうの實の如し



一種

おろつき
いぬつき

樹高と二三尺
至る葉の形
前茶せんに似てあま花
も前茶せんと同あま一



一種

おろつき
いぬつき
馬鞍あま

葉の形あまうつき
似てあま粗あま滑あまくあま梢
と穂をあまああまして白
色あま五あま瓣あまの花をあま開
くあま大あまとあま三四あま分あま許あまリ
あり



一種 みつむらぎ

ふゆもせ

あめー 光日



大樹とあふ枝を多く
生け葉ハ一茎三葉として
れんけうの如く四月梢より
穂をあら花を開く形前
余は似たり實ハ形軍配に似たり

樹高さ七八尺に至る
葉の形うつら同し
初夏梢より穂をあら
て千葉の淡紅色の
花を開く形菊の
如く大き四五分許り
あり



一種

樹の高さ前条と同じ
花葉の形状亦前条と
同じて白色あり



一種 ふきまうつき

日光山中より自
生り葉は波
蕪に似て濶く對
半寸の縦道
有り梢に穂を
あて夏月四瓣
の白花を開く



大き六分余
してうつきあり
大ひあり

楊楯

たふりつき

やまうつき

うつきまふ

中越

さをとめうつき

列雲



山足より自生あり人家にも多く栽ゆ
樹高さ六七尺春嫩芽を生じ葉の形
紫陽花に似て薄く周りに鋸齒あり
葉嫩き時ハ紅色を帯り夏月葉の
間ハ花を開く形常のうつきまふ似て大
長さ寸余淡紅色あり後實を結ぶ熟ま
れハ四瓣許り破きて花
の如し





一種

樹葉花實とも
前条に似て花黄
色あり

一種

多収うつき

十姉妹

三才圖會

錦帯花

同上

鬢

嬌

丹鉛總録引
成都古今記

海仙花

澠水燕

日月花

中山質門

樹高さ六七尺に至る春月舊莖より嫩芽を生じ葉の形状たようつき、
似て大く厚く周りに鋸齒あり初夏より葉の間と一方に六七花
を生じ二方合され、数十四五花に至る一花の形たようつき、似
て筒短く大なり初開く時、白花あり次日、淡紅色となる日、随
て紅色とある一本満開あるときは、紅白数百花相雜りて甚美なり

あまね
うつき





一種

樹葉花とも
前条に似て花
白色あるもの
なり

一種



樹葉花とも
前条に似て花
深紅色あるもの

石南

志也くあき

志也くあき 志也くあき 勿豫

深山幽谷の所に樹の高は六七尺に至る
葉四時とも凋すれ 形状枇杷の葉に
似て小く面深緑色 背は褐色の柔毛
有り初夏 梢に枝を生し数花を繁生し
一花の形 蹄踏に似て大は五辨或は六
七辨をふれ開くと淡紅色とされり

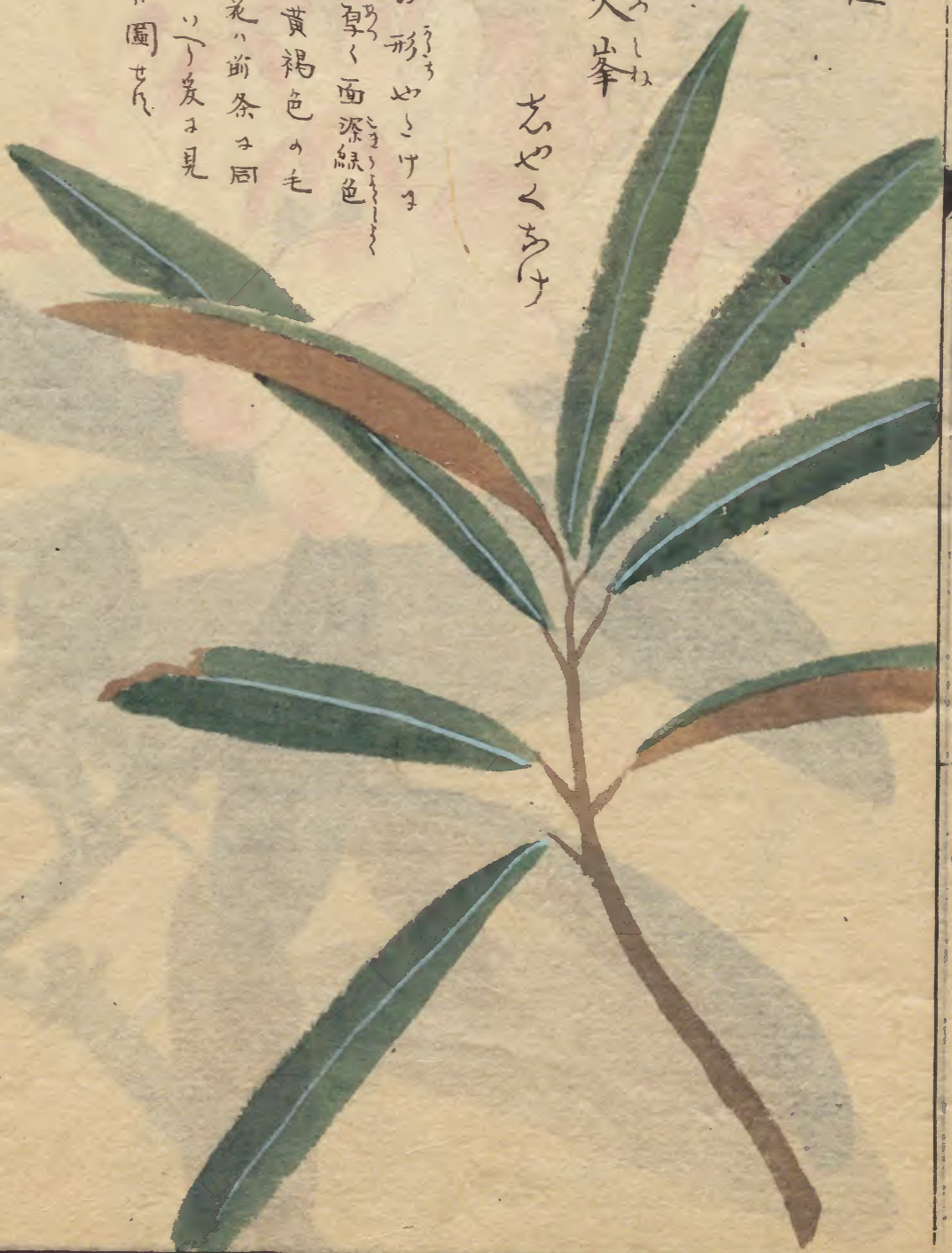


一種

大峯

志也くちけ

葉の形也くちけ
似て厚く面深緑色
芽は黄褐色の毛
あり花は前条と同
しとりの皮を見
されは圖せり



杜^下荊^{けい}

まんもんぐく

たへのきみ

うつむふど

土^と薬^{やく}
雅通

木^{もく}薬^{やく}
筆談

和産ふし 享保 年中 漢種 渡りてす 今世に多し 樹叢生し 高丈余に
至る 春新葉を 生枝葉 對生し 葉の形 初一茎 三葉 後五葉とす
人參の葉に たる 皮を 剥くと 皮は 紫を 帯び 長片 淡緑色と なる 新枝は
の葉の 色は 嫩葉は 微し 紫色を 帯び 長片 淡緑色と なる 新枝は
方より 緑色 蔭枝は 円くして 褐色に 折れ 中には 方心ありて 他木と 異なる
れり 初夏より 枝の 梢より 穂を 生し 花を 多し 長さ 尺許
り 花の 形は 紫 蕪の花に 似て 薄紫色 後實と 結ぶ 形 胡荽子に 似て
内し 微し 長し 熟す 水は 黒色なり

本草綱目卷之六十九



五
七
八

本草綱目

卷之六十九



蔓荊

たまもい 本草和名 たいら 和名 たましき 和名

いずみ 和名 たまご 和名 たま 和名

ほろ 和名 たま 和名 藝州黄横和名たまふ又たまふと云者との別物なり

たまもき 和名 たまうき 和名 たまやあき 和名

大才のき

名壘

暖地の海邊に自生す。枝幹は柔軟にして蔓の如く枝地をけり。葉は厚く粉紅色にして對生し秋月茎の梢穂を生じると長さ三四寸紫碧色の花を

開く紫菫の花にて至て大は五六分許り後實を結ぶ同くして褐色其殼厚く形南燭の子より大ひく豆則ち根を採りて紅色を染と云う此枝葉を採り下品は線香を造るといふ

一種

樹葉花ともしは形状前条と同く唯花正白色あり此實も前條と同く薬用に入るといふ

蔓荆



白花の物



紫
刑けい

てなはつら　はつらもな　はつらのき

てあむらさき　満まん條じょう紅こう諸しよ火か蟻ぎ通つう

矮わい荷か
古今
医鑑

人家にや多おほく哉や申まを樹じゆ高たかく支し詩しり至いたる春はる月つき葉はは先まへして花はなを開ひらくし紫むらさ紅あか
色いろよして形かたち状じやう酢す枝えだ子こ花はなを似にて瓣はな裂さし其その花はなは年とし生なる所ところ他ほか木きと異ちが
ふして定さだまる処ところふし或あるは樹じゆ或あるは枝えだ或あるは又またの胸むね子こあり一ひと房ぼう救きう花はなを簇くわく
生なれ花はな後ご賢けんと生なれ形かたち豆まめ莢かへを似にて中なかの扁へんき豆まめの如ごとき實じつあり地ち下した
せ生なれ易やすし葉はは花はな後ごに生なれ形かたち豆まめの一ひと葉はを似にて勢せいは大小おほ三四寸さんしゆすんに
至いたる此この樹じゆの皮かわを採とりて兼あ用もちとすん

紫 (けい)
荊 (い)



紫珠 集解 赤むらさき

こむらさき 川播

あめくのみ 尾州同名あり

山中に生る枝葉對生
一葉の形桃葉樹より似て淡
綠色細き鋸齒なり夏葉
の間五瓣の小紫花を發開
以後同き實を結小初め緑
色秋後日垂り熟して紫
色となる形南燭の實の
如く葉枯落すれば實は
よく美なり



花實の形状赤むらさきの如く葉の形状同くして大ひあり

一種

むらさき 一きふ

むらさき 一きふ

たまむらさき こめうつき



一種



やましろ
やましろ

つねに山に生ずる。常列筑波山中にあり樹高さ丈許。リ葉の形おむらさきに似たり夏月葉の間に五瓣の小白花を簇生し後小き實を結ぶ初緑色熟れば白色とある形状おむらさきと同一

本草圖譜卷之九十目錄

灌木類

木槿	きんぎょ	一種	あろそり花	二
絞りの物	じりもの	一種	えんじ	四
浅紅の物	あさか	一種	深紅のこめ	五
細辨浅紅	こぼろあさか	一種	淡紫の子葉	六
白花の子葉	あざむらさき	一種	淡紅の子葉	七
紫の子葉	あざむらさき	一種	白色子葉	八

一種	びんごん	九	一種	くまざり
扶桑	ぶつさけ	十	一種	くまざりの物
一種	白色の物	十二	一種	くまざりの葉
一種	紅の葉	十三	一種	黄色の葉
一種	白色の葉	十四	水芙蓉	みづぶつ
一種	白色の物	十五	一種	白色の葉
一種	醉芙蓉	十七	一種	七面ぶつ

本草圖譜卷之九十

灌木類

木槿

きたあは

和名

あさり

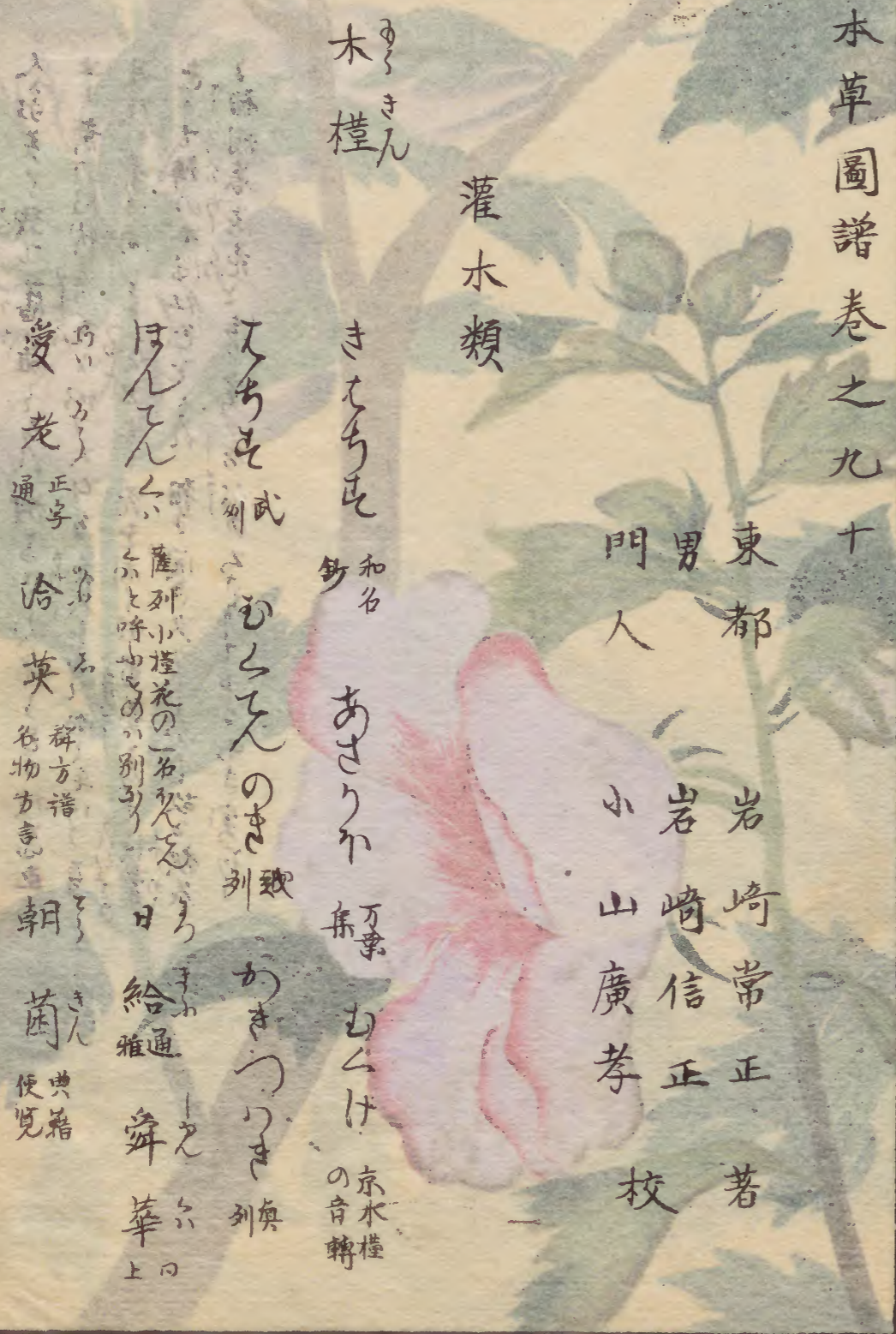
万葉

むんげ

京水槿の音轉

東都 男門人

岩崎常正 著
岩崎信正 校
小山廣孝 校



てあは武
ほんてん
あいら
老
通
正字
冷
英
群方譜
各物方言
朝
菌
典藉
便覧

人多多く我て藩籬と云ん樹るに力余るむの枝葉を
生し葉の形状葉花の似て大いふ花又を可し嫩し毛ゆり夏
月枝の葉の同とを答をせし花を雨の形蜀葵の似ては葉
を下し辨の本厚紅色と云ん初に同久外はわび故に秋衣
と相周暮花と云ん高濱の地ひのちゆりて中りぬき実り何

木對

葦木對

國語



一種

志ろちち花

樹皮ともみ前条と
同く花も前条に似
て單瓣正白色のもの



一種

樹葉ともよ
尋常の品又
同く花白
色は淡紅の
絞りをあ
るもの



一種

クニベヨ

樹葉ともよ
尋常の品
又同く花白
色は淡紅の
絞りをあ
るもの



一種

樹葉とよ
尋常の品
同く花淡
紅色より本
又深紅色を
帯ふるの



一種

樹葉とよ
尋常の品
同く花紅
色より本
深紅色を帯
ひ葉の本
細き辨り



一種

樹葉とん^り尋常^のの
尋常^のの
同^く花淡
紅^を赤^くて本
深^紅色を
帯^ひ葉の本
より先^まえ細
辨^をみる



一種

樹葉とん^り尋常^のの
尋常^のの
同^く花淡紫
色^を赤^くて本
深^紫色を
帯^ひ葉の本
より先^まえ細
辨^をみる



一種

樹葉ともよ
尋常の品よ
同く花白色
ふして千葉の
もの



一種

葉ともよの
ふして千葉
尋常の品よ
樹葉ともよ
封葉ともよ尋常の品よ
同く紅色よりて本よ
深紅色を帯ふ千葉ふる
もの



一種 花の葉は千葉の如く
尋常の品は 同く花紫
色よりて千 葉あるもの



一 蘇



一種

らんらんらん らんらんらん
 文大島土 俗名
 小椋花和

和産のよみを未に見に流形より来る又八丈島に産に云暖国の産
 中へ寒と思ふ冬月密中の養りをはり心折る樹の本椋に似て有
 こ二四尺瘠て斬り多葉の葡萄又樹に似たり色淡紫色
 の斑紋あり秋月葉乃同か一花をまじ塔花形も僅し似たり
 問くときい五瓣 花紅色ちりす山分許り原より移りてあり
 後家と経山四子並ひ吹してす麻子の如くありてあり



一種



毛茛
黄橙
李院
文集
金水
蘭
福列府志
中山質同

豆列の海涯に自生あり樹木橙より
似たり高き三四尺葉は蔓荊の葉
に似たり花は黄橙色なりて之
生に厚月葉の回を花を用く
形亦橙に似たりや辨厚く木は
深紅色と帯り



木蘭圖譜

卷之九十一

枝桑

琉球りゅうきゅうひらけ

福桑

彦桑
新桑

喜蔭おくら路那ろな



和名わな— 琉球りゅうきゅうより来たる暖国の
産物と云ふ冬に温室中いむに養
はせし心は折る葉立生して
形如桑花さくらば多分似たりし深紅色
初背赤く光澤あり夏月なつ梢より
枝回し花を圓く形如木蓮きれんに似
たりし深紅色なりと云ふ

一種

樹葉とて
前条の如く
花の形物も
又前条の如く
赤て黄褐色
本は紅色に
帯りしもの



一種

封葉とて
前条の如く
赤て花深
紅色千葉ふ
るもの

葉の形物も
又前条の如く
赤て黄褐色
本は紅色に
帯りしもの



一種

封葉ともよ
前条の如く
花黄色千
葉ふるもの

一
幹
花
葉
の
色
は
黄
色
千
葉
の
葉
は
ふる
もの
の
花
は
前
条
の
如
く
の
花
は
黄
色
千
葉
の
葉
は
ふる
もの



一種

樹葉も小
前条の如く
花も又赤紫
如く色も白
赤紫と帯
るもの



一種

樹葉ともか
前条の如く
花黄福色か
一して本と深
紅色ヨリハ
子葉もこの



一種

樹葉ともか
前条の如く
花白
色十葉あり
との



木芙蓉

フキ

錦秋

名物
方言

醉容
事物
花鏡

文官
花鏡



芙蓉と栴出の連の衣の
中木芙蓉と分る人
多々戦中春落葉より
葉は花
葡萄に似る花又粗
木の秋



栴の花と葉の形も種々
多々淡紅色の中皺文

本草綱目 卷之九十一

一種

樹葉前糸の如く花
白色ありとの實も亦
糸よりく蔓の中か
敷子あり



本草綱目

卷之九十一

十六

本草綱目 卷之九十一



一種

樹葉も、前糸
の如く花白色、葉
みろくの



本草綱目

卷之九十一

十七

一種

醉芙蓉花鏡

酒芙蓉 廣東新語



樹葉とも小前糸の如く
花も相状前糸の如く
千葉の如く和の如く
ハハを治丹と紅を帯ひ
花は深紅と如く花と碎
芙蓉の如く





一種
 七面芙蓉
 和
 林



同
 甲の池
 同
 深紅と白の物

牡丹園

牡丹園

樹葉より前条より花蒂より花を写し形状梅の一種より
ごらんのかし沃紅色より牡丹のみか

